

1. 動機（経緯）	<ul style="list-style-type: none"> ・農産物価格低迷・消費減退等の中、農業所得が低迷し、農業就業人口の減少、特に担い手農家の減少が懸念されています。 ・このため、平成21年12月に開催しました第23回JA熊本県大会において広域JA段階に部門横断的な経営管理指導体制を構築し、農家の経営改善と営農指導力の強化に取り組むことを決議しました。 ・この決議にもとづき、県・関係団体と連携して「担い手」を中核とする農家の経営安定等を目的とした「熊本県農家経営支援システム」を構築しました。農家経営支援システムは、生産技術分析による営農指導の強化で販売額向上を図り、農業経営診断分析・農家経営シミュレーションによる経営管理支援を行うことで農家経営の改善を目指しています。 ・平成22年度に1JAが稼動したのを手始めに、平成23年度3JA（予定）、以降順次各JAでの稼動を予定しています。
2. 概要	<p>「生産技術分析システム」 販売精算データをもとに販売実績、指標値、営農指導履歴等による生産技術に関する原因分析・対策検討を行い、生産力のアップを図ります。</p> <p>「農業経営診断システム」 農家決算（貸借対照表・損益計算書等）、部門損益、経営診断書等により収益性・安全性・生産性等の面から農家経営を数値的に分析的に確かな経営状況把握を行います。</p> <p>「農家経営シミュレーションシステム」 ・農家の生活費・営農計画・資金繰計画・借入金償還計画等の将来予測を作成して、経営改善・安定化を図ります。</p>
3. 成果（効果）	<p>「農家経営」 出荷量・単価・販売高・不合格率等からみた年毎の販売実績、他者との比較による技術向上・品質の底上げ、コスト分析・労働力分析によるコスト削減、また営農計画・資金計画での個別農家指導による収支・資金繰り等経営改善への指導によって農業所得の向上が期待されます。</p>
4. 今後の予定（課題）	・ 今後はJAへのシステムの順次導入により、システムを活用した営農指導の強化と個別農家の経営改善を図ります。

